

第5回第六次大野市総合計画後期基本計画策定幹事会 令和7年度第2回大野市総合計画・総合戦略推進会議 議事概要

日時：8月4日（月）午後7時～9時

場所：結とびあ305，306

◆出席者 総合計画・総合戦略推進会議委員 18名（欠席者3名）
後期基本計画策定幹事会委員 41名（欠席者12名） ※別紙名簿参照
加藤行政経営部長、小林政策推進課長、
政策推進課員（廣作、廣瀬、眞柄、松下、雨山）

◆次 第

1 開会

2 会長あいさつ

【第一部】総合計画・総合戦略推進会議

1 議事

（1）第六次大野市総合計画評価報告書（案）について

概 要： 資料1，2に基づき事務局説明

外部評価は委員ごとの点数を明示し、内部評価との単純平均により総合評価案を作成。A，B，Cの評価にばらつきがある項目は、施策評価アドバイザーや会長の意見を確認した。また、今回、内部評価と外部評価の結果がすべて一致し、総合評価も同じとなる。報告書案は例年通り9月に市HPで公開する予定。資料2の評価シートの修正箇所は赤字で明示し、グループ内での確認を依頼。また、会議後の修正は会長に一任を依頼。

質 疑： （1）と（2）を合わせて、各分野（グループ）において実施

意 見： 後期基本計画につながる意見として、評価指標はわかりやすい数字を設定してほしい（例、ふるさと納税など）。

結 果： 承認

（2）前期基本計画4年間の評価の総括（案）について

概 要： 資料3に基づき事務局説明

24項目の成果指標、現状値、R6実績値、目標値、進捗率を一覧化。目標を達成している指標は青の網掛け、現状値を下回る指標は赤の網掛け。当

初は、成果指標の結果を総括とすることを検討したが、バラつきが大きい
ため、各年度の施策評価の結果を加重平均（R 6 年度 50%、5 年度 25%、4・
3 年度各 12.5%）により評価の総括とする案。後期基本計画にもわかりやす
く一覧で記載する予定であり、表記の方法（A、B 評価か点数か）は今後
検討したい。

質 疑： （１）と（２）を合わせて、各分野（グループ）において実施

質 疑： 進捗率を偏差値で表記した理由を教えてください。

事務局： 現状値を下回る実績値があり、進捗率としてはマイナスとなる。そのため、
全ての指標の結果から各指標を偏差値として示すことにした。これにより
50 を上回ると目標に向けた進捗率が高く、下回ると低いことがわかる。

結 果： 承認

（３）人口ビジョン R 7 改訂の目標人口案と考え方について

概 要： 資料 4 に基づき事務局説明

今年度改訂を予定する人口ビジョンの目標人口案について、考え方ともに
説明。数字は本日決定するものではなく、今回は意見をいただきたい。
総合計画の 2030 年の目標人口を 2 万 7300 人から 2 万 6300 人へ、現人口ビ
ジョンの 2045 年の目標人口を 2 万 3200 人を 2 万人に変更する独自推計。
推計の方法は、「社会増減」では、25～44 歳流出超過を改善し、特に、女性
の改善率を男性より高めに設定、これに合わせて 5～14 歳の流入を増加。
「自然増減」では、合計特殊出生率を 2040 年に 1.55、2050 年に 1.65 まで
段階的に増やしていくことを目指すもの。大野市は現状 1.51 程度であり、
1.65 とは現在の鯖江市ぐらいであり、嶺南は総じて高く小浜市では 1.7 程
度である。

参考 平成 30 年～令和 4 年人口動態保健所・市区町村別統計【厚生労働省】 おおい町 1.91／高浜町 1.83／小浜市 1.71／若狭町 1.68／鯖江市 1.66／ 美浜町 1.64／越前市 1.59／福井市 1.55／敦賀市 1.55／越前町 1.53／ 南越前町 1.52／大野市 1.51／池田町 1.50／勝山市 1.49／坂井市 1.46／ あわら市 1.39／永平寺町 1.34

質 疑： 現状で小浜市や鯖江市が合計特殊出生率が高いという話があったが、新し
い施策があるなど何か違う要因があるのか。

事務局： 合計特殊出生率を上げるためには、まず 20 代の若者を増やす必要がある
（合計特殊出生率は年齢別の出生率の合計により計算されるため、若年女
性の人口が多ければ、その年齢層での出生数が増え、結果、引き上がる）。
さらに、大野市は未婚率がこれらの市に比べて高いため、婚姻数を増やす
ことも必要である。

【第二部】後期基本計画策定幹事会

1 議事

(1) 第六次大野市総合計画後期基本計画（素案）について

概 要： 資料5に基づき事務局説明

構成は、第1編「序論（基本構想・前期評価）」、第2編「後期基本計画（施策展開の視点、分野別の項目）」。

施策展開の視点としてSDGsの推進に加え、ウェルビーイングの推進、ジェンダーギャップの緩和、シェアリングエコノミーの推進を追加する予定。また、財政の見通しについても追加する予定。分野別の項目ページは、「あるべき姿」、「現状と課題」、「施策」、「みんなができること」、「評価指標（KPI）」で構成。さらに今後、写真やグラフなどを追加する予定。

質 疑： 各分野において実施

閉会

第二部はもう少し長く議論したかった。他市では、高校生や大学生に一般の方も加わり、結論の出さないワークショップを行いまちづくりについて考えている例がある。また、福祉の中での防災などが重要視されてきている。個別避難計画などの数字をKPIに検討されてはどうか。さらに、例えば空き家対策と耐震補強の連動や、災害後の瓦礫処理費が高額であるため、軽減に向けての事前対策の必要性など横断的な視点からの検討も求められる。

◆会議資料

大野市総合計画・総合戦略推進会議委員名簿

第六次大野市総合計画後期基本計画策定幹事会委員名簿

第六次大野市総合計画後期基本計画・第3期大野市総合戦略策定WG委員名簿

資料1：令和6年度施策 評価結果（案）一覧

資料2：第六次大野市総合計画評価報告書（令和6年度施策）（案）

資料3：前期基本計画4年間の評価の総括（案）

資料4：人口ビジョン令和7年改訂 目標人口案と考え方

資料5：第六次大野市総合計画後期基本計画素案 ※幹事会委員のみ

令和7年度第2回大野市総合計画・総合戦略推進会議 意見交換 議事概要

日時：8月4日（月）午後7時～8時15分

場所：結とぴあ305・306

- 幹事会委員
- 庁内WG員・事務局

令和6年度施策評価報告書案について

1 こども・健幸福祉分野

1 子育て

- 出生率・子育て拠点の令和6年の実績が、令和元年より落ちているなかで、評価がBとなるのが理解できない。なぜか。
- 子ども分野担当のが欠席のため、後ほど回答する。
- 内部評価については、施策の取組状況と成果指標の2つを踏まえて評価している。令和6年の実績が、令和元年より下がっている中で、施策の取組の状況や成果を加味して評価を付けている。委員の皆さまにも評価をいただいて、総合評価をBとしている。基本的に評価のつけ方は1と2を総合的に勘案して評価をつけていることをまずご理解いただきたい。そのうえで、Bとなった理由については担当課に確認してお知らせする。
- 資料2 p17 ②成果指標2「地域の子育て支援拠点となる施設の延べ利用者数」について、対象施設が地域子育て支援センターとちつく・たつく、園解放の利用者だけとなっている。例えば OSORA など最近できた施設や、子ども食堂等、ほかのところの利用者はどうなのか気になった。今度、いれたらどうか。上庄とかだと、あまり出ていかないなどあると思う。
- ご意見を後期の目標を立てる際に参考にする。成果指標に入っていないくても、施策の取組状況及び成果のところに書くこともできるので、また考える。
- 結婚子育てハンドブックについて。R5とR7の中身がほとんど変わっておらずがっかりした。支援している人の目線でもう少し書いてほしいと思う。
- 令和8年度版作成時に検討したい。

2 学び

- 資料2、p19 下部 推進会議委員の意見について
「児童数に対する教員の配置が手厚く」について、現場では人手が足りない状況で、もう少し教員がほしいと思う。この見せ方だと、配置が手厚いんだと思われるのではないかな。
- 18p2-1⑤「結の故郷教育相談員・支援員」の配置について書いたが、先生ではなく支援員を、（おそらく推進会議委員は）教員と捉えられたか。大野市は他の市町に比べ支援員を多く配置していることを評価されたのではないかな。「教員」ではな

く、「結の故郷支援員」と書くと分かりやすいのかと思う。

- 「児童数に対する教員の配置」という書き方について、「教員」を「結の故郷相談など」という書き方にすると誤解がないように思う。そのように修正する。
- 成果指標『「学校が楽しい」と回答する児童生徒の割合』について、これはどこからもってきたデータなのか。
- 学期ごとに取っている、市独自のアンケート。平均値を指標としている。
- アンケート結果を指標としていることを教員が知っておかないと…小学生は、アンケート前に楽しいことがあれば「楽しい」と回答し、ちょっといやなことがあれば「学校が楽しくない」となる。これが実績値として挙げられると信憑性がわからない。アンケートをとる教員自身が成果指標に反映されると知っておく必要がある。周知していただくと、精度が上がると思う。
- 後期基本計画の成果指標の選定のときに。ただ、各学校に総合計画を配布している。
- 成果指標に反映されると知らない先生もいるかと思う。

2 地域経済・くらし環境分野

9 観光業

- 宿泊者数の目標値はどのように算定しているか
- 宿泊者数のキャパと稼働率を踏まえ算定している

16 公共交通

- p47 一番上の表のタイトル行を訂正したい
(×「令和6年度目標」 ○「令和6年度実績」)
- p47 一番上の表の成果指標3 越美北線の年間乗客数の令和7年度目標値について、334,000と【346,800】がおそらく上下逆のため訂正したい

3 地域づくり・行政経営分野

17 ひと・地域

- 成果指標中の検討会の「地域課題解決」とは、こういった内容・議題でやっているのか。
- 大野地区はアンケートや空き家、阪谷地区は現状の把握や座談会を行っている。
- 富田地区では話を聞かないが
- 富田地区はまだ取組が進んでいない

18 防災力・防犯力

- 総合防災マップ説明会の開催地区について、地区とは集落単位か。
- 行政区が多いが複数の場合もある
- 区長によって防災への意識が異なるため周知を図ってほしい
- 単独で説明会を開催しても人が集まらなかったりする。住民が集まる機会などで

冒頭に時間をいただくなどし、工夫しながら開いていきたい

19 文化・芸術

- 文化会館が来年なくなるため、心配である。
- 寺町アートに行ってみたが大変良かった。一方、もう少し照明など工夫されると良かった、そういった際の支援や連携が図られると良い。

20 移住・定住

- 地域おこし協力隊が頑張っていて活動されていて良い
- 移住者の交流イベントは年間何回行ったのか
- 3月に1回行い、その他奥越前まんまるサイト主催で1回以上行っている
- 地域おこし協力隊や奥越前まんまるサイトとの連携やサポートできる体制を構築し、進めていただきたい。

23 市民サービス

- 電子申請が可能となった行政手続きの件数は、7年度の目標を6年度の実績から減らしている理由は。
- 令和2年度の計画策定時の目標が、63件だった。
- 電子申請の実績は、まだまだ増えそうか
- 電子化できる手続きには限りがある。まだまだ増えるということはない。
- 令和6年度の実績からさらに増えることはあるのか。
- 押印の電子化など、新たな電子化が進んだ結果、実績が増えた。今後増得る可能性は低い。
- 電子化を進めた結果、システム改修など大きな予算を使ったか
- 電子申請そのものに予算は使っていない。ペーパーレス化に今あるシステムを使っているため。

24 行財政

- 財政調整基金目標20億円について、財政規模に応じて、どのように設定されているか
- 標準財政規模に対して10～20%が妥当とされており、大野市は最低でも10%で設定してきており、現在の目標は20%としている。

前期基本計画に基づく4年間の評価の総括案について

- 4年目の成果指標の進捗率偏差値とあるが、どのような意味か。
- 24項目全体の成果指標の中での偏差値、という意味。偏差値は難しい。何%達成したという率ではなく、偏差値に置き換えて表すことで、進捗率が100%以上にならない。100%を超える、と表現したほうが分かりやすいが、現在4年目の評価をはかっており、5年目の最終的な評価ではない、ということで、偏差値での評価をしている。
- 50を超えれば良いのか。
- 然り。50を超えれば平均以上。
- 偏差値と平均点、2つの点数があり市民に伝わりづらい。進捗率は明示しない方がよいのでは？
- 進捗率を偏差値にしている理由は？
- 実績値だけだと現状値を下回りマイナスになる指標があるため、偏差値で表した
- 加重平均の考え方は
- 初年度悪くても後年度に良くなっていけばよく、後年度の評価・割合を多くしている

第5回第六次大野市総合計画後期基本計画策定幹事会 意見交換 議事概要

日時：8月4日（月）午後8時15分～9時

場所：結とぴあ305・306

- 幹事会委員
- 庁内WG員・事務局

素案全般について（全部会での意見）

- 人口の維持増加対策と、減少適応対策があると思う。P7に中部縦貫自動車道開通と北陸新幹線開業が大きなチャンスとあるが、企業がくるなど実際に効果があるのか疑問。また、若い女性が大学を出てキャリアを積んでも、教員・市役所など大野で働く場所が限られているように思う。家業を継ごうという意志がある人以外帰ってくる人は少ないのではないか。それがいいところでもあるが、大野では古いところが多いと思う。女性が役割を求められすぎていると聞く。大野に帰ってきて、祖母や母から聞く話があると思う。地区の集まりで女性が台所・お茶だしをなど。男性も、性別でいる場所が決まっているような。そんな雰囲気抵抗がある女性はいらると思う。市役所では、今女性の役割のようなものがなくなっていると思うものの、（市役所以外ではあまり進んでいないようなので）女性が帰ってこないのは、そういうところもあるのではないか。P15に施策があるが、もっと市役所が率先してやらないと雰囲気が変わらないと思う。今回とは関係ないが、人口ビジョンが出る中でそう思った。難しいかと思うが…
- 「1あるべき姿」とは、誰が思うあるべき姿なのか。市の思いか、担当課なのか、世の中一般的なあるべき姿なのか。大野市には、大野市のあるべき姿があると思うが、誰が思うものか。「あるべき姿」という言葉が気になる。「あるべき姿」という言葉が悪いと思っているわけではない。
- 計画を進めていくにあたり、大きな目標「5年後こういう風になりたい」という思いが必要かと思い、あるべき姿をおいている。今のところ、担当課が作成している。あるべき姿が違うのではないかという意見があればいただきたい。
- 書き方、フォントについて。「1あるべき姿」「2現状と課題」と続く中で、「4みんなができること」を見逃しやすい。全体的に大きい文字が多いので、項目等のフォントを見直すといいと思う。
- P22を見ると、埋もれているように思う。ページ構成を改める。
- 現状と課題を分けた方がいいように思う。施策、取り組むべき内容が、ずれているように思う。課題に対応する施策がないものもある。一覧表にするなど、分かりやすく見れるように。
- 書き方として、「課題」があって、それに「施策」があると思う。読むとわかるの

だろうが、どれが結びついているのかわかりづらい。並べた方が見やすいと思う。

- 見せ方については、整理・工夫したい。
- 「5みんなができること」の【市民】【団体】などについて、実際に市民や団体にアクションを具体的に起こすのか。
- 自分たちで考えて主体的にやってほしいという意味。市から押し付けではなく。前期から項目をいれている。
- 今まで（前期基本計画）も、出ていたのか。
- 然り。前期からいれている。
- 団体の長宛、等に周知・説明はしているのか。パンフレット等で。
- 配布している。概要版は全戸配布している。
- 起業・団体に個別に言っているのか。
- 個別には言っていない。周知の方法を考える。
- 専門用語や難しい言葉には説明が必要。
- 前期計画のように注釈を入れるなど検討する（例：P56「概成」）
- 各評価指標について。設定されているのはいずれも重要なものだと思うが、なぜそれが指標に設定されたかが市民には分かりづらい。「施策」欄のどこと結びついているのかがわかりやすいような表現をしてほしい。
- 1年後でもいいが、評価項目とか目標数値の見直しを入れた方がいいのか。電子申請手続件数にしても（達成し）後半は意味がなくなっているのではないかと感じた。また、HP閲覧数意外に、LINEなど新しい指標が生まれた。そういう見直しがあってもいいのではないか。
- 英語やカタカナは、日本語でできないか。
- 大学でも日本語への変換を検討したが、ある日本語に変えると、英語での意味合いが失われたりして、しっくりこない。SDGsなどを訳しても合うものがない。
- これまでも意見が出ていたが、カタカナを日本語に訳すのはやめた。例えば、ジェンダーギャップの緩和を説明する際に林歌子さんを紹介するとか、シェリングエコノミーを説明するのに「結」の取組を例に使うなど、市民に親しめるよう、コラム的に補足を書いてはどうかとも考えている。
- 大野らしい具体的なことがあるといいのではと思う。
- 先日の審議会でも大野らしさがないと、同じような意見があった。より親しめるように検討したい
- 現状と課題を分けて書いてはどうか
- 元々分けて検討してきたが、文字数を減らしたいこと、2つをつなげることでセットになり見やすいこと、これら理由でつなげた。ただし、分けた方が良い、つなげた方が良いの両方の意見はある。

1 こども・健福祉分野

1 子育て

- P23 について、「子育て世代にやさしい企業の新規認定数」累計ではなく新規にしている理由は。累計が見えづらいのでは。
- 累計だと、単年度の成果が見えづらいため新規とした。今後、検討する。

2 学び

- P26 K P I について。子どもが「楽しい」と思うことは大切だが、「学校や地域で学び経験していることが、日常生活や未来で活かしたいと思った割合」や、ふるさと教育に力を入れているなかで「大野に住みたい、近くに住みたい、離れても大野に貢献したい」など、先生方の働きかけがどのように子どもたちに反映されたかが見える指標がいいと思う。
- 1 部でも意見があった。検討したい。
- 教育委員会 2 本の柱。①学力②安心して通える学校。②をまず目指すところとしている。ココに出ているもの以外にも成果指標がある。
- P25 に図書館の機能充実、とあるが、県立図書館が電子書籍に対応したときいた。大野市も早くそうならいいと思う。また、前期計画 3 章で、SDG s の位置づけと、SDG s の項目がどれに対応するのかとあるが、後期にも今後のレイアウトで反映されるのか。
- SDG s については、現時点は P18 をご参考に見ていただきたい。

5 スポーツ

- P36 のスポーツ指導者公認資格の新規取得者数と、資料 2P25 スポーツ指導者公認資格の新規取得者数の数値が異なるのはなぜか。
- 前期は累計（昨年までの実績積み上げ）で実績をだしているが、後期では 1 年ごとの新規取得者の目標を置いた。1 年ごとの目標が見えづらいため、単年度での指標とした。

2 地域経済・くらし環境分野

6 農業

- 遊休農地の定義は。現状では遊休農地がないように見えてしまう
- 農業委員会で遊休農地の判定を行っており、その結果によるもの。市民も実態と乖離していると感じる可能性があるので、さらに実態に即した指標に変えることも検討している
- 耕作放棄地面積に変えて遊休農地ということか。
- その通り。何も耕作されていない放棄地を正確に把握するのは困難。農業委員会とも相談し、市民にとって分かりやすい指標としたい
- 指標の言葉の意味が分かりにくい（例：1号遊休農地、再造林）

7 林業

- K P I の林業従事者はR 8～R12の間に3名雇用ということか
- 単年で3名という設定
- 再造林とは。雑木を伐採し、杉を植えるのか
- 人工林の杉を伐採し、新たに杉を植えること
- 植林はなぜどんぐりに限定しているのか
- 明確な理由は不明。樹木の保水能力などを考慮したものかと思う
- 指標の言葉の意味が分かりにくい（例：1号遊休農地、再造林）

8 商工業

- 創業者数の4件は単年度か
- 単年度。年度によってばらつきがあることから、過去の平均等から目標値を算出している
- 創業者数はあくまで市の補助を受けたものか
- 以前は補助のみに限定していたが、今回は創業支援等事業計画に基づいて支援を受けている、または、市の制度融資を受けている件数として、間口を広げている

9 観光業

- みんなができることに「市民が笑顔で観光客に一声かける」ということを明記してほしい
- データの把握・分析とあるが、データは県から提供されているのではないか
- 県のデータは県全体の平均値であり、あわら温泉や恐竜博物館なども含まれる。大野市のデータと乖離している場合がある。人手や予算の関係でデータを取れていないという課題がある。

10 働く環境

- 国勢調査結果に基づいて市外からの通勤者数を指標として設定しては
- 国勢調査では「通勤者など」となっている。通学者が含まれており、通勤者だけに限定して割り出すことが困難

訂正：国勢調査「従業地・通学地による人口・就業状態等集計」の第6－2表（通勤者数）と第6－3表（通学者数）で分けて把握することは可能。ただし、5年毎の調査となる

13 生活環境・14 消防・減災

- P59（生活環境）50行目、「施設を更新する際は最適な施設規模とし」とあるが、人口が減少しているとはいえ面積は減らないが、施設規模を縮小することは可能なのか？
- 例えばポンプの容量など、小さく更新できるところもある。
- 水圧は下がる？
- 下がることもある。
- P61（生活環境）指標「住宅の耐震化率」の説明は「人が居住している住宅」が分母になっているが、空き家も含めて対策を検討していく必要もあるのでは？（指標に空き家も入れてという趣旨ではないと思われる）
- 同じく、古い家の耐震化、気持ちでは必要とわかっているが、金額が高いのでなかなか本格的には踏み切れない。例えば、全部ではなく一部だけ耐震化することを評価したり、そうした施策を打てないものか。低コストでできるような耐震化はないものか。
- 国や県の耐震基準を満たさないと補助することは難しい。
- 耐震シェルターという考え方が出てきた。家の中に小さな耐震の家をつくるイメージ。（今年度から制度化）
- 全般に言えることだが、部局横断的な計画の検討が必要。例えば耐震化にしても、空き家の問題もあるから、空き家問題（やその部署）と一緒に考える必要がある。
- 国の基準を100%満たす、というのではなく、一定レベルでも評価することは検討できないか。
- P64（消防・減災）「みんなができること」に「耐震化を進めます」とあるが、市民にとってはハードルが高いと思う。進めたくても金額的に進められない人もいる。
- 大野の良くない面でもあるが、大野に大地震は起きないだろうと市民が思っているフシがある。意識醸成も大事では。
- P60（生活環境）の「みんなができること」では「耐震性に対する意識を高めます」としているので、この表現と整合をとるようにする。（消防・減災でも意識を高める旨、記載の検討を）

3 地域づくり・行政経営分野

18 防災力・防犯力

- 成果指標に犯罪率は設定できないか。
- 警察が持っている数字である。防犯パトロール数などが、指標と施策が直接結びつかない点がある。市行政の施策の成果と言いつらい面があり、今回指標からは落とした。

19 文化・芸術

- 文化活動発表の場、文化会館が来年なくなるので、場所がほしい。めいりん、結とびあのホールがあるが、十分な環境ではない。文化団体の発表の場が問題になっている。楽しく、苦勞しなくても発表できる場がほしい。
- 郷土芸能がある。いろいろあるが、後継者が育ちにくい。保存活動に参加していただけるような取組ができないか。かつて小学生の鍬踊りの発表の場があった。練習したり、発表の場を作る。そのような企画がほしい。

20 移住・定住

- 移住相談件数について、令和6年度の実績が、令和12年度の目標をすでに達成しているがどうか。
- 令和6年度を保っていきたいという設定。背伸びした数字ではなく、令和6年度が過去最高の移住者この数字を維持したいという目標。
- 移住定住に空き家対策協議会は関連するのか
- 令和3年の空き家等対策計画策定時に協議会を開催している。令和7年度から改訂作業をしているので、現在も協議会はある。8年度からの計画改訂をすすめているところ。

21 情報共有

- 広報おおのは見やすくなった。記事を書く人の熱意が感じられる。アットホームな広報になるといいなと感じる。